

# ちょっと読んでみませんか(令和元年お盆)

## 第50話『法華経の《令和》』 〓本源寺副住職 本間健司

「令和」になって最初の『ちょっと読んでみませんか』となりました。しかも第50号の記念号というおまけ付きです。なんだか深い仏縁を感じます。(私だけでしょか…)

あらためて振り返ってみますと、今年5月に、めでたく平成天皇の御退位と今上天皇の御即位がなされ、「令和(れいわ)」という新時代を迎えました。この「令和」という言葉の出典は、皆さんご存知のように『万葉集』にありました。

『万葉集』に収録されている「梅花の宴」38首の序文にある、次の文章から取られた言葉です。

「…時に、初春の令月れいげつにして、気淑く風和やわらぐ。梅は鏡前きやうぜんの粉ふんを披ひらく、蘭らんは珮後はいごの香くむを薫くむらす。…」

なかなか難しい文章ですよ。

ただ、「美しい」を意味する『令』と、「日本人の魂」ともいえる『和』をつなげた、とても“縁起の良い”言葉であることは、きちんと説明がされました。皆さんは、この「令和」に少しずつ慣れてきましたか？

さて、この「令和(れいわ)」という新元号の発表(4月1日)の数日後、いつものように朝のお勤め(読経)をしていた私の目に、「令」と「和」の二文字が光り輝くように飛び込んで来たのです。本当に偶然というか必然というべきか…

それは、『法華経』の中でも最も大切な教えが説かれる『如来寿量品第十六』の中の経文(比喻の部分)からでした。

「父見子等ぶけんしとう 苦恼如是くろうにょぜ 依諸経方えしよきようぼう 求好薬草ぐこうやくそう

色香美味しきこうみみ 皆悉具足かいしつぐそく 擣篩和合とうしわごう 與子令服よしりょうぶく

《意識》

「父親(お釈迦様)は、子供達(私たち)が毒薬(欲望に振り回されること)を飲んで苦しんでいるのを見て哀れみ、方々に手を尽くして、子供達でも安心して飲めるよう、色も香りも味も良い薬草(仏教の様々な教え)を探し求めました。

そして遂に薬草を手に入れ、更に、それらを石臼で細かくすりつぶし飲み易くした(お題目「南無妙法蓮華經」に集約した)後、子供たちに服用させた(救いに導いた)のです。」

經文の最後の一節(右の傍線部の箇所)を横に並べると、

「**擣篩和合**  
與子**令服**」

となり、見事に「令和」が現れるのです。

たまたまじゃないんですか？ そんな声が聞こえてきそうですが、実は私自身も少しそう思ったものですから、法華經の辞典を参考にしながら調べてみました。約7万文字もある『法華經(妙法蓮華經)』だから、他にも同じような箇所があるのではないかと。

その結果、「令」という字はかなり頻繁に出てくるのですが、「和」という漢字は意外にも少ないんですね。そして、その「令」と「和」が同じ文節で使われている箇所は、この「擣篩和合 與子令服」の他には全く一か所もありませんでした。

『法華經』のなかの唯一の「令和」が、「如来寿量品第十六」という最も重要な教えの中にあるということに私は深く感動するとともに、

「これは偶然ではなく必然にちがいない。きっと、令和という時代は、南無妙法蓮華經の精神が必要とされる時代になる。」と率直にそう感じました。

「良薬は口に苦し」ということわざがありますが、お釈迦様が私たちのために調合して与えてくれた薬(お題目)は、色も香りも味も良く誰でも飲みやすいのですから、「良薬」を越えて『大良薬』とも言えるでしょう。

それはまさに、**令**(美しく)**和**(調和の取れた)『大良薬』(南無妙法蓮華經)。

さあ、令和時代の始まりです。

「令和」という言葉を見た時、「令和」という文字を書く時、「美しく調合された」「南無妙法蓮華經」という『大良薬』もぜひ心に“服用”して頂ければ幸いです。

『ちよつと読んでみませんか』が第50号を迎えられたことに深く感謝し、合掌、  
南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経

☆本源寺のホームページを新たに作成・公開致しました。日々のメッセージや『ちよつと読んでみませんか』・法話会についても順次掲載していきます。皆様のご訪問お待ちしております☆

《アドレス》 <https://www.hongenji-shiraito.jp/>